

















發行所 合資會社 京城日報社  
 本報通一丁目  
 電話 總機 二四四  
 編輯部 二八五  
 發行部 二八六  
 印刷部 二八七  
 廣告部 二八八  
 營業部 二八九  
 庶務部 二九〇  
 會計部 二九一  
 倉庫部 二九二  
 印刷部 二九三  
 印刷部 二九四  
 印刷部 二九五  
 印刷部 二九六  
 印刷部 二九七  
 印刷部 二九八  
 印刷部 二九九  
 印刷部 三〇〇  
 印刷部 三〇一  
 印刷部 三〇二  
 印刷部 三〇三  
 印刷部 三〇四  
 印刷部 三〇五  
 印刷部 三〇六  
 印刷部 三〇七  
 印刷部 三〇八  
 印刷部 三〇九  
 印刷部 三一〇  
 印刷部 三一〇

せば相當利益を得べしとの説をなす  
者あり現に三島海雲氏の如きは蒙古植林治水をなすに缺くべからざる前  
の植羊改良に從事しつゝあるや唯突提事業なるものも個人の力にては  
通及び運輸機關の微事しつゝあるが爲め爲す能はず隨つて蒙古開發に  
市場擴大までには餘分の失費を來し、並に公共機關においで大虧損をなす  
結局利益を得ざる事となるも漢人種を必要條件となすなり

はん  
し  
はつ  
てん

# □本紙の發展

讀者各位に謹告す

新政建に五年を閲して朝鮮開發の基礎確立し、經營今や第二期に入る  
而して帝國の大陸發展は之より將に多量ならむとす。我京城日報は過  
去約十年間、殊に新政以來朝鮮開發の政策方針と相俟つて半島  
文化の促進に貢獻する所あり。然かも時勢の進遷は今や  
新たに京城日報の一大活躍を要求して已まず、而し

讀者各位に謹告す

只の酒なら諸君と競争出来ぬが、す  
べきことだ」と、彼等騒々といふ。す  
る誰かと、「朝長、このウイスキーを呼  
ぶとは悲劇か、樂觀か」と、賴狂言を捏  
造する。他の一人が、「大なる悲觀は大なる樂  
觀に一致する」といふから、唯「笑  
う放つて居る」といふ。命木萬太郎は、  
「韓國科士務廳長、龍島、紫輝

の一事は、以て吾人に新時期を興ふるものに非ずして何ぞ。

數世軍の士、擧げて述べ立てたる根も正君我が意を得たなり許り。夫れで「無茶苦茶」を失墜する原因です。と無茶苦茶に臨んでたが、源流地方局長「目下調査中」の一言で熱を冷す（十八日宛て）

其性醇濃、氣樸感、度敷賄略、脱離小往天地、萬畝耕得概一千里。備使新製、藩開明實、諸君有本、即持此致謝。大抵儒夫道趣、歸而後止。心所盤詰、自道主大我一生虛飾、非君欺。相問、只有二流旅。劍泉此心與衆常事、似。

せらるべきか。吾人は茲に今更敢て明細なる献立表を吹聴せざる

正の御軍、安海に在るや、  
軍の精士、神速なる者、蘇正を以て降さん」と  
欲し、「則ち四十萬騎を率ゐて出陣せんとす」といふ。清正曰く、「我に敵軍湖兵あり、  
近國無きより、吾も、汝無難においでなむ。  
我親統帥の敵方へ赴きて、遊獵したる四十萬の軍は、  
何處かに事あると見ゆる。」と答へ、蘇正したる其の勢に  
めりて山脊懸けるに、冬枝の景色を望して居る所を、  
一矢、直白に破つた。激流の間に、衆將の漂れし舟

不返、風吹、送孤雁鳴。白木樓中、復合不。  
笑許長照氣難忘。

評曰、悲愴之情、却不作欒位語、誠深於不朽之  
語、能叙情前事、以傳于不朽之詩、使筆情詳、寫意真、可謂絕好優  
賞。

日歌壇

教習の鑑なり出して夕溜の湛しき

古の一大平原にして此間には農  
として將來有望なる處あり去れ  
係我が邦人を遺憾なく移住せしめ

博士はまた曰、「此の邊の或る部分  
は、墨西哥のテコマカ地方に  
酷く似て居る、勿論墨西哥の方に  
は、ヤシもあるけれども、こぶは  
又二年の間に一度盛開するから、出てへる  
花の数が、つつある。こぶは、牛  
博士等に著く、博士は、牛の  
延びなからうて、此の牛に、牛に

東京支局 一 記

[illegible]

キ―だと勝算歴々だ」とい  
と誰か『朝長のウイスキ

其悲觀が樂觀がと頓狂翁を捉へて一人が「大なる悲觀は大なる樂觀に一致するといふからぬ。世に教育費委員會で鈴木次郎君が隨二番一試みに足らなば淺草公園に於ては限するに可なり食ふに飯なく修養然飢死を待つ無智無識の浮浪が數ふに達なき有様である」と世軍の才官擬きて述べて立てると根柢若我が意を得たと言ひ失れて

命唯は心算算々人々驚顔見居君有忘人識否有身忘病忘老君上子能明之倫素々字年青年人實實縣三十六年一心傾銘節試士能銘體人成身健體且輕人散十君根柢肥田成身健體且輕人散十君能學勇員軍士工程長飲酒進酒侮侮然難推一阿爾旭日晴晴立頭夢餒餒滿盈為棒城隊及敷鐵路餒餒々往天地藏聖林視得一千里無使新

廿八日夜記

裏の港へ 金谷貞  
スター博士と同事して  
神王寺驛より

の孤軍安邊に在るや、加藤清  
の笑は天下の嗤である。甘て  
懽士助を誘ひ立てゝ、義正を講じて降さんと  
「則ち軍を動かす」が、或る成りたるものあり  
と云ふ。清正曰く我に船頭湖光あり  
と云ふ。清水正に答へ、船頭湖光あり  
の敵を庇つて遊樂したならば四十萬の軍  
院恪守居士。自撰七字百鍊精詞。同僚澤  
墨樓上會。爲我國古人細評。舟月日遊  
大向水。流水聲和松影舞。夕憶去年古  
別日。釜山客舍剪短髮。懸愁之詩猶在  
人。生私歌吹送迎。嘔賊寇之骨未去。  
不返。春風吹滿鴨鳴。白木樺中覓合  
笑。汗長服氣難離。

評曰 悲憤之情。却不作欒位低劣狀  
語。筆致性情事蹟。以傳于不朽  
既筆精辭富意蘊興。可謂絕好傳

動くのも面白い、あすこが**弓衣**

だ處だ」と對馬の船長を指せば「おゝ」  
に留て直ぐが、火船にあつた上、防衛  
士はまた曰く「此邊の或る部分  
西馬西野都部のテコマパカ地方に釀  
成て居る、勿論墨西哥の方には森  
林もあるけれども、その森林は  
年餘の流行に感ぜぬ者から出で、今も  
なごなご都つてある、因に昨は午後三時半  
等に著く、船士は此邊の汽船が吹に  
なからちて此の國に降つた、  
譯には感ずる

死骸にちつと向ひてある如し暮れ  
ゆく年を見送ることろ  
さりげなき浮世ばなしも身にはし  
め此の冬の夜の静かなる部屋  
悲しき眼にじつと見守る野良犬の  
飢えたるが追へどつき來るかな  
あきらめの強き言葉に吾が魂はお  
ひゆる如し涙流るゝ

幻花

大正五年二月一日  
(定價二十五錢  
郵稅三錢)

## 鑛業令の要旨

●轉便貯金の狀況  
遠藤郵便貯金管理所長

●肺ヂストマの豫防  
宮人醫學博士

●恩賜賑恤資金に就て  
馬行苦事續 ●若勢館に顯はれたる  
各道逆勢 ●牛皮の輪移出 ●眞綿の生産及輪移入 ●家蠶繭の  
産額と一の移出 ●苗木の掘取季節と假植地の濕度とに就て  
個人經營の灌溉事業 ●十二月中の鐵道運輸 ●遞信事業概況  
●教員心算の發布

◎實習教授  
義州公立農業學校

大正四年馬面經曹仁關する調

言ハレ  
○投函を歓迎す  
○販賣店  
○廣告料

東京神田區松室、御雜各地の書店に販賣す  
一頁十圓

取扱店 京城 ウツボヤ書籍店

原稿締切期限毎月十日

法令及送服ノ券以俟

附送新聞紙

無料進呈

斯道専門發行

永樂堂書店

東京神田錦町二の三

憲法と總督制

[illegible]

▼女の科學的研究……………工藤ドクトル

[illegible]







安東縣驛を通過し給ふ

御歸國の途にせらるゝ露國太公殿下御一行の御召列車は安東縣驛にて先づプラットホームには御出迎の爲、安東県退出へ罷せる中村關東軍駕籠頭越前守川上理事及び吉川御事以下重なる官民有志士御辱し御遣送せる一個小隊の儀仗兵等略別して御著車を待ち奉る。貴賓車の未だ東郷に著せざる午前七時少し過ぎの頃太公殿下には御着を出でさせ給ひ同列士の死んだ端より端まで附れる寺内親善堂の室を訪れ續いて一箇山門に至りて是處から鞍馬河原を離れて南嶺の麓に至ると云ふ所迄二十

朝上陸オリエンタルホテルに入り午後六時半  
 東上す 御吉町式部官製作官として三十一日岩神出迎へ共に東上せり

三四十枚に達するものがある。又飛行船は大正九年に購入した雄飛號が只一隻あるのみで、其の發動機はマイハツ式三百馬力であるが、今日では既に舊式に屬し、更に新式でない露西亞を

我國軍用飛行機の進歩

論研究用として購入したものであれば、高度の速力を要さない筈ではあるが、現在獨逸が戰線に使用して居る可い獨逸品は戰争前迄西西亞の

日本に於ける飛行界の記録を破

志は戰後と雖も纏結して行つて決して、  
一時的な現象ではないと思ふ即ち、  
露西亞からの商品注文は今後多少の

金品を強奪し妻女に重

陽を<sup>ひ</sup>負<sup>お</sup>け<sup>す</sup>ず

其れを日本商人の對露實績、死亡の爲め、最初から打毀し同然の事とやつてゐるのは甚だ残念な事だと思ふ

予の日本商人に切に希望し謝絶す

は我親友也  
我が商權の

人に露西亞の智識の無い事は決して  
單に

◆商人のみとは限らず

今後何時迄も日等の如き種類の

品たるべく  
 糸茶石炭  
 のを今後の輸出品  
 として引廻す様を調子に出る、此れな  
 ども露西亞人に言はせると迷惑千萬

## A black and white illustration featuring portraits of six Soviet military leaders in circular frames at the top and bottom. The top row includes portraits of Zhukov, Tukhachevsky, and Voroshilov. The bottom row includes portraits of Budyonny, Konev, and Rokhsovsky. The background depicts a biplane flying over a landscape with a small structure on the left.

官民の奉迎送——長春に向けせらる

究會としては、連も此の六十萬圓では希望の全部を充たす事は出来なからうが、兎に角出来るだけ費用を節し、製作並に技術の研究に奮進する

（中央）毛式飛行機と奉天城（上右）  
岡大尉坂本中尉（下右より）川上少

上よ塔た築ち者しや澤さ田た中ちゆう尉ゑい  
武ぶ田た中ちゆう尉ゑい伊い庭てい中ちゆう尉ゑい

鐵板一枚ののち、威風凛々として、その近所を、出歩かたる。其の威風凛々たるは、鐵板を運搬し、逃走したる所を本町署の巡査に取押へられたり。

●生徒募集  
本年四月入學セシムベキ本校第一學年生徒約百五拾名ヲ募集ス。詳細ハ一學報又ハ本校後五日刊朝報總發行所官報又ハ一月一號キヲ承合スベシ。

●京城專修學校  
入學出願期日 三月十七日マデ  
入學試驗期日 三月十七日同二日  
其ノ他詳細ハ一月八日朝報總發行所官報又ハ本校二號キヲ承合スベシ。

●女子事務員募集  
直接來談の事  
但し二十歳以上  
本町日韓書房  
二丁目

●普通  
價名一面前金三十圓無利息  
●京日案内  
●乾牛乳  
●純粋ヨーヨー  
●太正塚肥野獸場  
●四町東邊城牧場亞東  
(廿二五拾電)

●朝鮮語科  
●英語科  
●書畫科  
●桐箱製造  
●京藤井出張  
●勸業貯蓄債券買入  
●開業貸及金貸  
●泰寶店  
●京城日報  
●京城日報  
●京城日報

●大れを希望する  
●兩國民の親和  
●讀者文藝  
●短歌  
●鐵板一枚ののち  
●威風凛々として  
●其の威風凛々たるは  
●鐵板を運搬し  
●逃走したる所を  
●本町署の巡査に  
●取押へられたり

下野國總  
木七郎右衛門造  
特約  
明治町一丁目  
野牧店  
電話二五三番

醬油  
最良  
品質絶大  
味優  
力買大  
損の中年はる誤を擇撰の油醬  
油醬クハキ品絶の一唯東國へ給み試  
石千二萬六額年りた冠に國全高造釀  
りり基に力買購の大最は高造釀の大最  
證實の越優質品は力買購の大最

醬油  
最良  
品質絶大  
味優  
力買大  
損の中年はる誤を擇撰の油醬  
油醬クハキ品絶の一唯東國へ給み試  
石千二萬六額年りた冠に國全高造釀  
りり基に力買購の大最は高造釀の大最  
證實の越優質品は力買購の大最



